



巻頭言

不就学児対策の前進

北島三郎

(一)

グラビヤ
ペー

ドヤ街の子どもたち
ドヤ街付近の暮し

写真大阪少年輔導協会
写真大阪社会学研究会

(二)
(五)

釜ヶ崎の子どもたち

研究リポート

人口と子どもたち 西田 春彦
密集バラック地区 光川 晴之
子どもと犯罪 仲村 祥一
ドヤの子どもたち 土田 英雄
東萩というところ 村井 研治

鍋島 浅吉
田中起代子
石井 太助
司会 宮田秀太郎

(九)

スラム街不就学児の実態

天王寺補導センター

(四)

会談 釜ヶ崎というところ

黒川 浅儀 吉田 好美 鍋島 浅吉
井本 シエ 伊藤 勝 司会 宮田秀太郎
田中起代子
石井 太助

(六)

西成特集

西成の中学生 たちは叫ぶ

私達の心構え……………中田 健次
友情……………井上 俊宏
非行少年と私たち……………山口 瑛子
あたたかい家庭ならば……………仲 佳子
私たちの町を明るく……………岡部 仁

(三)

家出娘・暴力団・犯罪者……………立木 俊二
西成のある不就学児の場合……………中村 福子

井田 太郎
萩野 敏男
宮田秀太郎

(五)

今月の ダイジェ スト 西成のどこが悪いのか

井田 太郎
萩野 敏男
宮田秀太郎

(二)

隔月
展望

大阪の青少年問題月間展望

(七)

論究
文究

少年非行の予見及び予測研究の展開

菅 俊夫

(八)

特別
ルポ

キャンプが僕らを呼んでいる

六甲・熊取・志摩の青少年キャンプから

(六)

随筆
生徒を知る努力
あたたかい処罰

小谷 達夫
水野 貞一

(九)
(三)

紀行
アメリカとどこどこ(3)

西田 誠行

(七)

映画合評
怒れる若者たちの遊び
暴走する反抗族

松葉 健

(一〇)

まんが

仙太くん
会館だより
読者のページ

松葉 健

(一〇)
(四)

動きの時

- ☆ 中山厚生大臣の就任祝賀パーティー
- ☆ 子どもを交通事故から守る運動
- ☆ 不就学児の復学を激励
- ☆ 「みおつくしの鐘」で帰宅指導
- ☆ 働く青少年の盆おどり大会
- ☆ 大阪市青少年指導員研修会開かる
- ☆ 施設の子ら洲本へ一泊旅行
- ☆ 第四回精神衛生講習会
- ☆ 第九回青少年問題中部・近畿地区会議
- ☆ 関西芸術座公演「獅子」
- ☆ 近畿地方の施設の少年野球大会
- ☆ 泉佐野市青少年代表者交歓会

(六)

表紙
今

三喜

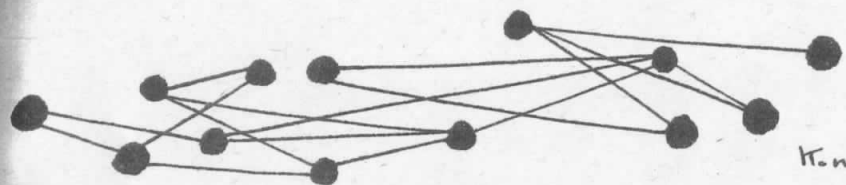
カット 今三喜 南くに夫

ドヤ街の子どもたち

彼等に希望と夢を！



どん底の町、といわれる大阪西成の蓋ヶ崎界わいは、大阪のというより日本の底辺地帯として、有名になった。最近の映画、テレビ、演劇によって、その貧困ぶりと暴力の描写が話題をよぶからだ。だが社会の片すみの中に、食しながらも、生活と闘いまじめに生きている人々も多い。子どもたちは無心に無邪気に今日も遊び回っている。



K.n

《巻頭言》

不就学児対策の前進

あたたかい手をさしのべよう

不就学の子等の就学を阻んでいる原因は、不就学児側の親の無理解も多いが、それに輪をかけている要素も多い。

「スラムの子は臭い」「ガラが悪い」と、受入れの学校側のPTAあたりの圧力が、学校行政に影響を与える向きもあるときく。

また、役所筋では「本籍がはっきりしない」「住所がはっきりしない」とか瑣末的な行政手続の問題によって、就学の道がおくれがちの所があるようだ。

ところが、こうした中でも、大阪市浪速区役所などでは、積極的に、地区民生委員の居住証明によって仮入学の措置をとり、且つ学校側も子どもの就学に際しては、その都度個別的に入校させ、一般生徒に同化させるといふ、うま味のある行政をして成績をあげている。

この方式が全大阪に拡がりをみせているが、大阪だけでなく、全国的なものになれば、不就学対策の問題は、もっと明るい見透しをもってくるのではあるまいか。

ともすれば、杓子定規式の役所になりがちだが、恵まれない子どもの問題については「血の通った行政」の新風を期待したいものである。

(北畠 三郎)



ドヤは、一日三十円位から、百円前後という。ふ
 とんもない安宿で育つ子もいる。炊事をする家庭
 は少ない。親は手っ取り早い「めしや」を利用し
 て、稼ぎに出でしよう
 として、子ども達は小遣いといつても、十円から二
 三十円もあって残る小遣いといつても、それは
 皇代を預かるものではない。それを遊びに使う子
 もいる。ペタン、ビー玉にも賭けをしているの
 を見た。子どものキャンブルが盛んらしい。育ち
 盛りの空腹に、つい他人さまの物に手をつけた子
 のために警察によばれた親は、「うちの子は小遣
 いをやつてまんね」と力むが、子どもにとつては
 可哀想な環境である。



この界わいの子ども達の遊び場は道端や、やど。の出入口である。「学
 校を知らない子ども」も多い。いわゆる未就学児、不就学児、長欠児と
 いう例だ。貧困と荒廃の中で、親たちは学校のことをあまり考えてな
 ようだ。折々に行われる補導でも「わての子やさかいに、ほつとい
 か」という親もいる。



すべての児童は、心身ともに健康に生まれ、育てられ、その生活を保障される。すべての児童は、就学のみを確保され、また十分に整った教育の施設を意図される。すべての児童はよい遊び場と文化財を用意され、わるい環境からまもられる。児童憲章には、うたわれているのだが……。



大阪府警では、西成、浪速をモデル地域として、積極的に活動を開始して、不良少年の発見は、捕導などの一角を占めるが、係員の目にとまるのは、氷山の一角にすぎない。彼等が、汚れた願の天使をつくらないために、彼等と夢を与えることの出るため、ぞまれている。希望と夢を与えること、何かを考えた環境の中で育つ子らのためには、社会はどうかを考へなければならない。